

**平成26年度**

**日置市教育委員会点検・評価報告書**

**日置市教育委員会**

## 目 次

1	制度の趣旨	1
2	点検・評価の対象	2
(1)	「学力向上に向けての取組の充実」	2
(2)	「特別支援教育の充実」	3
(3)	「生涯スポーツの推進による市民の健康づくり」	4
(4)	「社会体育施設等の充実及び利用促進」	4
3	点検・評価の時期	7
4	タイムスケジュール	7
5	外部評価委員会の概要	8
	日置市教育委員会外部評価委委員会設置要綱	10
	平成26年度日置市日置市教育委員会外部評価委委員会委員名簿	12
	教育委員会活動点検・評価シート	13
	<u>○学校教育 「学力向上に向けての取組」</u>	
	鹿児島県「基礎・基本」定着度調査	13
	学習指導アシスタント派遣事業	14
	教職員の資質向上	15
	小中連携	16
	担当課による評価総括表	17
	事務事業一覧	18
	<u>○学校教育 「特別支援教育の充実」</u>	
	市就学指導委員会	19
	巡回相談事業	20
	特別支援教育研修会	21
	担当課による評価総括表	22
	事務事業一覧	23
	<u>○社会教育 「生涯スポーツの推進による市民の健康づくり」</u>	
	総合型地域スポーツクラブ「チェスト伊集院」の育成	24
	学校体育施設開放事業	25
	担当課による評価総括表	26
	<u>○社会教育 「社会体育施設等の充実及び利用促進」</u>	
	施設整備及び利用促進	27
	担当課による評価総括表	28
	事務事業一覧	29

## 1 制度の趣旨

国は、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会では、毎年、教育行政事務に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果について報告書を議会に提出し、公表することが規定されました。

### (参考) 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

**第27条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

国においては、「結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うもの」としており、本市教育委員会では、こうした趣旨に照らし、教育施策の点検・評価を住民に解りやすく明確に示す意味からも、日置市教育振興基本計画（以下「計画」という。）内の施策における対象事業を点検・評価することとしました。

### 計画の施策体系

#### 基本目標

『夢をもち あしたをひらく 心豊かな人づくり』



#### 施策の方向性

『～郷土の教育的な伝統や風土を生かした「風格ある教育」の推進～』



#### 6つの施策

- ① きまりを守り、礼節を重んじる教育の推進
- ② 文（芸術・学問）と武（心身の鍛練）の両立を重んじる教育の推進
- ③ 自然や歴史と伝統文化を重んじる教育の推進
- ④ 安全・安心を重んじる教育環境づくりの推進
- ⑤ 協働社会によるまちづくりを重んじる生涯学習の推進

## ⑥ 健康づくりを重んじる生涯スポーツの推進

### 2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、市民が知りたい、分かりやすいテーマとして計画に掲げられた施策及び事務事業のうち、重要な施策であるにとらえている項目を教育委員会事務局で協議・選択し、教育委員会で選定します。

平成26年度は、過去の評価対象施策等を考慮し、学校教育からは、「Ⅱ文（芸術・学問）と武（心身の鍛錬）の両立を重んじる教育の推進」の施策内の具体的施策として「学力向上に向けての取組の充実」、「特別支援教育の充実」について、社会教育においては、「生涯スポーツの推進による市民の健康づくり」、「社会体育施設等の充実及び利用促進」の施策について点検・評価することとします。

計画内における各施策の内容は以下のとおりとなっております。

#### (1) 学校教育 具体的施策名 『学力向上に向けての取組の充実』

##### ア 現状と課題

- 本市の児童生徒の学力実態は、鹿児島県「基礎・基本」定着度調査及び全国学力・学習状況調査の結果を見る限り、おおむね全国・県平均以上であると把握しています。
- 同調査において、「家庭における1日当たりの勉強が1時間未満」の児童生徒が、平成19年度・20年度の調査において、県・全国よりも少ないという結果が出ています。

##### イ これからの施策の方向性

- 学力向上へ向けた取組を推進するために、各地域の小中連携を含む公開授業や授業研究を通して、教員の指導法の改善等を図ります。
- 各学校において、各種調査結果を踏まえ、学力向上についての「P（具体的な計画）・D（共通実践）・C（検証）・A（改善策）」のサイクルを確立し、計画的、具体的な指導方法の改善などを行う取組を推進します。

##### ウ 主な取組

- 学習指導要領の改訂の趣旨や内容の周知・徹底を図り、円滑な移行措置や先行実践が行えるような取組を推進します。
- 積極的に指導主事等の外部講師を招聘した校内研修や公開授業を実施できるような態勢づくりを推進します。
- 児童生徒の意欲、夢をふくらませる「夢づくり事業」を推進します。

## エ 具体的な数値目標

- 鹿児島県「基礎・基本」定着度調査及び全国学力・学習状況調査における平均正答率を県・全国平均を上回ります。
- 公開授業、授業研究の実施学校数（現在100%）を継続します。
- 理科関係事業・わくわく作文塾・のびゆく塾等の教育事業を今後も継続します。

## (2) 学校教育 具体的施策名 『特別支援教育の充実』

### ア 現状と課題

- 全校的な支援体制を確立し、障がいのある幼児や児童生徒の実態把握や支援を組織的に行い、より一人一人に応じた教育の推進を図っています。
- 市障害児就学指導委員会で障がいのある児童生徒の把握や就学についての適切な指導、保護者との教育相談を行っています。

### イ これからの施策の方向性

- 障がいのある幼児、児童生徒に対する正しい理解と認識を図り、適切な就学を推進します。
- 小中学校等に在籍する障がいのある幼児、児童生徒に対する指導・支援体制の確立や職員の資質向上を図ります。

### ウ 主な取組

- 校内委員会の充実を図り、支援が必要な児童生徒の早期発見・全校体制での支援を確立します。
- 幼稚園や保育園、特別支援教育コーディネーター等を対象にした実践的な研修会を実施します。
- 「日置市地域自立支援協議会」や「日置市子ども支援センター」との連携を図り、特別支援教育の充実を図ります。
- 各学校において、支援が必要な児童生徒の個別の指導計画を作成し、個に応じた教育を推進します。

### エ 具体的な数値目標

- 校内委員会で支援が必要な指導・生徒の早期発見とその児童生徒への個別の指導計画を100%作成します。

(3) 社会教育 具体的施策名 『生涯スポーツの推進による市民の健康づくり』

(ア) 現状と課題

- 生涯を通じてスポーツ活動に親しむことは、豊かな人生を送るとともに、心身両面にわたる健康の保持増進に必要です。そのため「健やかスポーツ100日運動」を推進しています。
- コミュニティスポーツクラブ『チェスト伊集院』を平成19年4月に設立し活動を行っていますが、会員増に苦慮しています。

(イ) これからの施策の方向性

- 市民が身近にスポーツに親しみ、健康で明るい「生涯スポーツ社会」を地域に築いていけるよう、市民のスポーツ活動や健康づくりへの参加啓発を推進し、総合型地域スポーツクラブの育成支援を行います。

(ウ) 主な取組

- スポーツレクリエーション教室等を開催します。
- ニュースポーツを推進します。
- スポーツ教室を充実します。
- スポーツテスト、体力テストを実施します。
- 総合型地域スポーツクラブの運営指導を行います。
- 指導者の養成と有効活用を行います。
- スポーツ振興審議会を開催します。
- 学校体育施設開放事業の推進及び利用促進を図ります。

(4) 社会教育 具体的施策名 『社会体育施設等の充実及び利用促進』

(ア) 現状と課題

- 現在、市内には50程度の体育施設があり、市内外の住民に利用されています。
- スポーツキャンプ・合宿を施設利用促進協議会及び宿泊施設と連携し、受け入れています。
- 運動公園敷地内の整備された施設もありますが、老朽化した施設や学校跡地の体育施設等も多く、今後の維持管理について検討する必要があります。

(イ) これからの施策の方向性

- スポーツレクリエーション活動の拠点となる運動施設や各校区運動公園、公園等の施設設備の整備・充実を図ります。
- スポーツキャンプの誘致等によるスポーツ観光の振興を推進します。
- 市内の体育施設等の維持管理業務の集中管理を目指します。

(ウ) 主な取組

- スポーツキャンプ・合宿を誘致します。
- スポーツイベント（妙円寺詣り行事大会・いじゅういん梅マラソンジョギング大会など）を開催します。
- 体育施設等の利用促進を図ります。
- 体育施設等の整備及び維持管理を充実します。
- コミュニティ広場を整備・充実します。
- ネーミングライツ事業を推進します。

※参考 過去の評価施策内容

年度	学校教育	社会教育
25	本市がこれまで取り組んできた「生徒指導の充実」（教育振興基本計画P15）がどのような状況かを明らかにするために「生徒指導の充実」を評価項目に選定しました。	子どもたちの豊かな人間性や主体性、責任感を育むために、異年齢の子どもと交流し、様々な体験を積み重ねることや子ども会活動の活性化を図り、そのリーダーとなる子どもの資質を高め、次代を担う国際人として通用する青少年リーダーを育ていくことが大切です。本市の青少年事業がどのような状況かを明らかにするために「青少年事業の充実とリーダーの育成」（教育振興基本計画P27）を評価項目に選定しました。
24	本市がこれまで取り組んできた「学力向上に向けての取組の充実」（教育振興基本計画P18）が鹿児島県「基礎・基本」定着度調査や全国学力・学習状況調査を踏まえ、どのような状況か	地域の子どもたちの健やかな成長は、地域の人々みんなの願いです。 学校の教育活動に地域の大人が多くかかわることで、充実した教育活動が行われると同時に、地域の絆の再構築や生涯学習の充実が図られます。地域全体で子ど

	を明らかにするために「学力向上に向けての取組の充実」を評価項目に選定しました。	もを守り育てる環境づくりを推進するしくみがどのような状況かを明らかにするために「地域、家庭、学校と連携した社会教育の推進」（学校応援団）（教育振興基本計画 P 26）を評価項目に選定しました。
23	昭和60年頃から子どもの体力・運動能力の低下傾向が続くとともに、肥満などの生活習慣病の増加が深刻な社会問題となっている中、本市がこれまで取り組んできた「体力向上に向けての取組の充実」（教育振興基本計画 P 21）が全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果を踏まえ、どのような状況であるかを明らかにするために「体力向上に向けての取組の充実」を評価項目に選定します。	今日では、テレビ、ビデオ、インターネットなどの様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されている中で、平成21年の国民読書年を契機に、本市において取り組んでいる「市民総ぐるみの読書活動の推進」（教育振興基本計画 P 29）を評価項目に選定します。

また、点検・評価を行う上では、下記の項目に留意します。


- 日置市が行う行政評価との整合性があること。
- 成果を重視した行政運営を行うため、事後評価を基本とすること。
- 評価の客観性、透明性を確保するための外部評価を導入すること。
- 評価の対象・方法は、毎年度見直しを行うこと。



### 3 点検・評価の時期

翌年度事業に、点検・評価の結果を活用するために、翌年度予算編成前の毎年10月までに行う。

#### 点検・評価の手順

- 
- 教育委員及び教育委員会事務局による自己評価
  - 外部評価委員による評価
  - 報告書の作成
  - 教育委員会で報告書の決定
  - 議会への提出及び市民への公表。

### 4 タイムスケジュール

月	内容	備考
7月下旬	7月定例教育委員会に点検・評価の概要（案）議案提出 各担当課への評価シート等の提出依頼	
8月中旬	評価シート等の取りまとめ 点検・評価内部報告書（案）の作成	
8月下旬	外部評価委員の選考・委嘱	
9月中旬	点検・評価内部報告書作成 外部評価委員会開催通知	
9月下旬	外部評価委員会の開催	
9月下旬	点検・評価報告書（案）の作成	
10月中旬	10月定例教育委員会において点検・評価報告書（案）について委員評価実施	
11月中旬	11月定例教育委員会への点検・評価報告書（最終案）議案提出	
11月下旬	外部評価委員へ報告書送付 議会への報告・ホームページへの掲載	

## 5 外部評価委員会の概要

- (1) 日時 平成 26 年 9 月 29 日（月）午後 1 時 28 分から
- (2) 参加委員 下笠政文、森園正治、西陽三 以上 3 人  
参加事務局 田代教育長、内田教育次長、  
教育総務課 宇田課長、横枕課長補佐、馬場係長  
学校教育課 片平課長、野添課長補佐  
社会教育課 今村課長、梅北課長補佐
- (3) 主な意見

### ア 学校教育 学力向上に向けての取組

基本的な生活習慣では、鹿児島県全体として全国平均より高い状況であり、また、市においても同様であるが、学力においては、全国平均より少し低い状況である。

今後、学力の向上を図っていただけるよう取組を強化していただきたい。

小・中学校で 9 年間学習するので、教職員の質の向上を図り、また、家庭との連携を重視して実施していただきたい。

### イ 学校教育 特別支援教育の充実

登校拒否の子ども達との関係については、子ども自身が発達障がいであったり、家庭環境であったりの様々な理由で具体的な理由がつかめない状況がある。

不登校の子どもについては、ふれあい教室を伊集院地区館で実施しており、学校に通学できるまでの間のフォローアップの着実が図られている。

### ウ 社会教育 生涯スポーツの推進による市民の健康づくり

県外合宿・キャンプ利用団体数が減ってきている中で、施設利用者数が多くなってきているということは、1 団体あたりの利用者数が多くなっており、新規等の利用者が大きい団体が多くなってきており、今後は、小さい団体への支援が減少してきていることから、こうした小さい団体についての支援検討が必要である。

### エ 社会教育 社会体育施設等の充実及び利用促進

高校野球で秋の県大会が先般行われたが、始良球場を使用している。

スコアボードがルール改正によりストライクとボールの表示が逆になっているということがあるとのことから、今後、整備を進めると共に伊集院球場の幅広い使用を積極的に働き掛けていただきたい。

○日置市教育委員会外部評価委員会設置要綱

平成 20 年 11 月 21 日

教育委員会告示第 23 号

(趣旨)

第 1 条 この告示は、日置市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に置く外部評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業評価結果を審査すること。
- (2) 事務事業評価制度の改善について教育委員会に意見、提言を行うこと。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者について教育委員会が委嘱する。

- (1) 市内高等教育機関関係者のうち、知見を有する者
- (2) 市内企業関係者のうち、知見を有する者
- (3) 社会教育、社会体育及び芸術文化関係者のうち、知見を有する者
- (4) 前 3 号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 5 条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会議を総理し、委員会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において処理する。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、平成21年4月1日から施行する。

平成26年度 日置市教育委員会外部評価委員会委員名簿

任期 平成26年 9 月 1 日～平成27年 3 月31日

番号	氏名	適用（第3条）	所属	地域
1	森園正治	第2項第1号	伊集院高等学校長	伊集院
2	西陽三	第2項第2号	市商工会長	吹上
3	下笠政文	第2項第3号	市体育協会長	日吉
4	永井章子	第2項第4号	市地域婦人会連絡協議会長	東市来

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	学力向上に向けての取組
事業名	鹿児島県「基礎・基本」定着度調査

1 事業の目的、概要等	<p><b>【事業の目的】</b>                  基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について、市内の全小・中学校を対象に調査を行う。その客観的なデータに基づき定着度状況を把握し、各学校での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図る。                  調査対象：小学校第5学年、中学校第1学年、中学校第2学年                  調査内容：小学校（国語、社会、算数、理科）                  中学校（国語、社会、数学、理科、英語）</p>
	<p><b>【事業の概要】</b>                  本市の小・中学生の基礎学力（社会生活を営む上での最低限必要な知識や技能等）の定着状況を把握するための調査を1月に実施</p>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	県の平均率を上回っている教科数（小学校5年生）		2	3
県の平均率を上回っている教科数（中学校1年生）		3	4	5
県の平均率を上回っている教科数（中学校2年生）		5	4	3

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性	◎
必要性	◎	実態把握に基づいて、効果的な指導が行える。
効率性	○	各学校の状況を把握することができる。
公平性	○	全校一斉実施のため、公平を保っている。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	0 千円	今後の取組み	各学校において、調査結果に基づいて、具体策を立て学習指導に役立する。また、本市の学力の実態把握により課題を明確にし、学力向上策に生かす。
-------	------	--------	--

		評価理由
5 評価	達成度	A 目標値に達成していない教科もあるが、下回っている教科もあまり差がない。今後も県平均通過率を指標としていきたい。
	方向性	a 全県的な実施のため、客観的なデータを得ることができる。経年比較など取組の方向性を検証することができる。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	学力向上に向けての取組
事業名	学習指導アシスタント派遣事業

1 事業の目的、概要等	<p><b>【事業の目的】</b>                  日置市内の複式学級を有する小学校において、鹿児島大学教育学部の学生が学習指導アシスタントとして、補助的に児童の学習にかかわることにより、学習内容の習得を深まりのあるものにする。                  教員志望学生が、鹿児島県の小学校で数多く実施されている複式学級の学習にかかわることにより、将来に向けて必要とされる資質の向上を図る。</p>
	<p><b>【事業の概要】</b>                  複式学級を有する小学校における学習指導アシスタントの活用及び実践</p>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	学習指導アシスタントの確保	38	38	22
年間派遣回数	299	300	228	
指導研修会の開催（事前ガイダンス含む）	4	4	4	

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性	◎
必要性	◎	学習指導のアシスタントの補助により、学習内容の定着が図られる。
効率性	○	教育実習終了済みの学生に依頼するために前期・後期で人数に違いがある。
公平性	○	学生の希望日・交通手段等により、派遣校の決定を行う。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	1280 千円	今後の取組み	「学習指導アシスタントの手引」（日置市教育委員会作成）を全てのアシスタント・学校に配布し、指導法・活用法について充実を図り、複式学級を有する学校の児童の学力向上に努めたい。
-------	---------	--------	--

		評価理由
5 評価	達成度	B 目標値に達成していない項目は、大学の推薦制を取っているために年度によって人数に変動があるためである。子どもたちへの指導については着実に効果が上がってきている。
	方向性	a 今後も鹿児島大学と連携を図り、複式学級の学習指導の充実を継続していく。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。



# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	学力向上に向けての取組
事業名	教職員の資質向上

1 事業の目的、概要等	<p><b>【事業の目的】</b> 市内の教職員の資質を高めることにより、学習指導や生徒指導などの各学校の教育目標の具現化及び学校の課題解決を図る。また、教職員一人一人の学習指導における指導力を向上させることにより、本市の学力向上をより一層高めるようにする。</p>
	<p><b>【事業の概要】</b> 校内研修会に指導主事及び外部講師を派遣することにより、授業研究をさらに深まりのあるものにする。また、学校教職員派遣研修で県外の先進校の研究公開等に参加させることにより、学校の課題を解決させるようにする。</p>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	校内研修講師派遣		81	100
日置市学校教職員派遣研修		10	10	14

3 事業の分析	分析結果		理由
	有効性	◎	校内研修が深まり、教職員の授業力向上につながる。
必要性	◎	授業力を向上させることは、本市の学力向上に必要である。	
効率性	○	先進校での研修内容を広く学校の教職員に報告することで効率的に深めることができる。	
公平性	◎	希望する学校や職員に対象としたもので公平である。	

※優◎良○可△不可×

4 予算等	640 千円	今後の取組み	各学校において、調査結果に基づいて、具体策を立て学習指導に役立する。また、本市の学力の実態把握により課題を明確にし、学力向上策に生かす。
-------	--------	--------	--

		評価理由	
5 評価	達成度	A	指導主事や専門的な講師の派遣により、各学校の課題解決に寄与することができ、本市全体の授業力向上を高めることができた。
	方向性	a	指導主事だけでなく、より専門的な内容については、外部講師を派遣することにより、学校の課題解決につながる事ができた。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	学力向上に向けての取組
事業名	小中連携

1 事業の目的、概要等	<p><b>【事業の目的】</b>                  小学校6年間、中学校3年間ではなく、義務教育9年間の教育活動を体系的に捉え、子どもたちの心身の発達や中1ギャップに見られる小中との接続を円滑にしていく。</p>
	<p><b>【事業の概要】</b>                  小中の連携を図るために、中学校区ごとに連携研修会を行い、学力・生徒指導等の諸課題について協議する機会を設ける。</p>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
		のびゆくひおきっ子事業委員会・運営協議会	3	3
	中学校区ごとの連携研修会の回数	3	3	3

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性	◎
必要性	◎	中1ギャップなどの解消のために情報を共有することができる。
効率性	○	各学校の研修との関連をさらに図る必要がある。
公平性	◎	全ての中学校区を対象としている。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	18 千円	今後の取組み	各中学校区の連携の内容を発表する場を設け、高校との連携をさらに推進していく。作成した「のびゆくひおきっ子の授業」リーフレットを活用する。
-------	-------	--------	--

		評価理由
5 評価	達成度	A 実態に基づいて課題を設定し、共通した内容で研修を推進することができた。
	方向性	a 今後も継続して小学校と中学校の連携を推進し、児童生徒の実態を確実に把握し、課題の解決につなげていくようにする。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価総括表

## 【担当課による評価総括表】

担当課

学校教育課

点検評価項目	学力向上に向けての取組
1 評価項目の現状・考え方等	<p>【現状】 本市の児童生徒の学力は、「基礎・基本」定着度調査の結果では、概ね県平均に対して同等かあるいは上回っている状況です。授業改善の取り組みにより中学校が伸びてきています。</p> <p>【今後の施策の方向性】 小中連携を更に進め、学力向上へ向けた取組を推進していきます。</p>
2 評価項目を取り巻く環境	<p>基礎的・基本的内容の習得とそれを生かした思考力・判断力・表現力の育成を主体とした授業の改善が求められています。本市の児童生徒は、思考力・表現力等に課題が見られます。その力を育成するために、9カ年間を見通した指導が必要であり、小中学校の連携が更に重要になります。また、学校間の差や個人の差なども縮めていく必要もあります。このような課題解決は、学校だけでなく、地域・家庭との連携も必要です。</p>
4 担当課による評価結果	<p><input type="radio"/> 評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度又は方向性の見直しが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</p> <p>※該当する項目に○を記入してください。</p>
5 担当課による総評	<p>教職員一人一人の授業力を向上させ、教員としての資質を更に高めていくためには、本市の学力の実態に基づいた課題を解決することが必要です。そこで、本市は「学力向上重点5項目」を設定し、各学校で具体策を検討し、共通実践していくようにしています。</p> <p>また、小中高連携により、公開授業や授業研究及び相互授業参観等を通じた研修会を開催し、その成果を全教職員で共有することによって指導力向上を図ります。</p> <p>学校、家庭、地域が学力や学習状況に関する調査等の結果に基づく課題を共有し、連携して学力向上が図られるよう具体的取組を推進します。</p> <p>さらに、社会教育課と連携し、市民総ぐるみの読書活動を学校の中でも積極的に推進し、多様な読書活動を通して、思考力・表現力の育成に努めていきます。</p>

# 事務事業評価一覧

事務事業名	評価の対象となる項目	24実績値	25目標値	25実績値	評価	
					達成度	方向性
鹿児島県「基礎・基本」定着度調査	県の平均率を上回っている教科数（小学校5年生）	2	3	3	A	a
	県の平均率を上回っている教科数（中学校1年生）	3	4	5	A	a
	県の平均率を上回っている教科数（中学校2年生）	5	4	3	B	a
学習指導アシスタント派遣事業	学習指導アシスタントの確保	38	38	22	B	a
	年間派遣回数	299	300	228	B	a
	指導研修会の回数	4	4	4	A	a
教職員の資質向上	校内研修講師派遣	81	100	123	A	a
	日置市学校教職員派遣研修	10	10	14	A	a
小中連携	のびゆくひおきっ子事業委員会・運営協議会	3	3	3	A	a
	中学校区ごとの連携研修会の回数	3	3	3	A	a

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。
方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	特別支援教育の充実
事業名	市就学指導委員会

1 事業の目的、概要等	<b>【事業の目的】</b> 障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識を図るとともに、新たな仕組みの下での円滑な就学手続きの実現に努める。
	<b>【事業の概要】</b> 早期からの教育相談・就学相談体制の確立を促進するとともに、障がいの状態や教育的ニーズ、保護者の意見等を踏まえた総合的な就学先の判断がなされるようにする。

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	市就学指導委員会		2	2
就学相談		8	8	8
就学時健康診断		5	5	5

3 事業の分析	分析結果		理由
	有効性	◎	一人一人のニーズに応える支援の充実につながる。
必要性	◎	就学先決定のための早期からの適切な教育相談・支援体制の構築が図られる。	
効率性	○	幼児児童生徒の実態把握等がなされ支援体制の整備が進められる。	
公平性	◎	障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識が図られる。	

※優◎良○可△不可×

4 予算等	141 千円	今後の取組み	福祉等の関係機関との連携や個別の教育支援計画の作成・活用により、就学前から学校卒業までの一貫した支援体制の整備に努める。
-------	--------	--------	--

5 評価		評価理由
達成度	A	障がいの状態や教育的ニーズ、保護者の意見等を踏まえた総合的な就学先の判断がなされた。
方向性	a	インクルーシブ教育システム構築のための合理的配慮事項の検討を進める。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	特別支援教育の充実
事業名	巡回相談事業

1 事業の目的、概要等	<b>【事業の目的】</b> 障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携を深め、特別支援教育の充実、校内体制の整備に努める。
	<b>【事業の概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全保育園、幼稚園、小学校、中学校の訪問</li> <li>・ 早期発見・早期療育</li> <li>・ 特別支援教育への理解と啓発</li> </ul>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	巡回訪問		15	20

3 事業の分析	分析結果		理由
	有効性	◎	一人一人のニーズに応える支援の充実につながる。
必要性	◎	就学先決定のための早期からの適切な教育相談・支援体制の構築が図られる。	
効率性	○	幼児児童生徒の実態把握等がなされ支援体制の整備が進められる。	
公平性	◎	障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識が図られる。	

※優◎良○可△不可×

4 予算等	千円	今後の取組み	幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える支援体制の整備に努める。
-------	----	--------	-----------------------------------

5 評価		評価理由
達成度	A	特別支援教育への理解・啓発に資することができた。
方向性	a	保幼小中の一層の連携のため、移行支援シートの作成・活用を進める。

## 【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

学校教育課

点検評価項目	特別支援教育の充実
事業名	特別支援教育研修会

1 事業の目的、概要等	<p><b>【事業の目的】</b> 障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識を図るとともに、一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援の充実に努める。</p>
	<p><b>【事業の概要】</b> 特別支援教育に関する教職員研修を充実させ、障がいのある幼児児童生徒が教育的ニーズに基づいて十分な教育を受けられるための支援の充実に努める。</p>

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	特別支援教育研修会（幼稚園・保育園対象）	1	1	1
特別支援教育研修会（小・中学校対象）	1	1	1	
特別支援教育研修会（特別支援教育支援員対象）	2	2	2	

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性	◎
必要性	◎	就学先決定のための早期からの適切な教育相談・支援体制の構築が図られる。
効率性	○	幼児児童生徒の実態把握等がなされ支援体制の整備が進められる。
公平性	◎	障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識が図られる。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	千円	今後の取組み	特別支援教育の担当者以外へも研修の機会を広げるよう各種の研修会の案内・広報に努める。
-------	----	--------	--

		評価理由
5 評価	達成度	A 教職員の特別支援教育に対する認識や理解が深まってきている。
	方向性	a 全教職員への特別支援教育に関する認識を高める。

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。



# 教育委員会活動の点検・評価総括表

## 【担当課による評価総括表】

担当課

学校教育課

点検評価項目	特別支援教育の充実
1 評価項目の現状・考え方等	<p>【現状】</p> <p>○障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援の一層の充実や就学先決定のための早期からの教育相談・支援体制の構築を図っています。</p>
2 評価項目を取り巻く環境	<p>○障がいのある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識を図るとともに、新たな仕組みの下での円滑な就学手続きの実現に努めます。</p> <p>○障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援の充実に努めます。</p>
4 担当課による評価結果	<p><input type="radio"/> 評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</p> <p><input type="radio"/> 評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度又は方向性の見直しが必要である。</p> <p><input type="radio"/> 評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</p> <p><input type="radio"/> 評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</p> <p>※該当する項目に○を記入してください。</p>
5 担当課による総評	<p>早期からの教育相談・就学相談体制の確立を促進するとともに、障がいの状態や教育的ニーズ、保護者の意見等を踏まえた総合的な就学先の判断がなされるようにします。そのためには、特別支援教育に関する教職員研修を充実させ、障がいのある幼児児童生徒が教育的ニーズに基づいて十分な教育を受けられるための支援の充実に努めます。さらに、「日置市自立支援協議会」や「日置市子ども支援センター」との連携を図り、個別の教育支援計画に基づいて、就学前から学校卒業まで一貫した支援が受けられる体制を整備します。</p>



# 事務事業評価一覧

事務事業名	評価の対象となる項目	24実績値	25目標値	25実績値	評価	
					達成度	方向性
市就学指導委員会	市就学指導委員会	2	2	2	A	a
	就学相談	8	8	8	A	a
	就学時健康診断	5	5	5	A	a
巡回相談事業	巡回訪問	15	20	23	A	a
特別支援教育研修会	特別支援教育研修会（幼稚園・保育園対象）	1	1	1	A	a
	特別支援教育研修会（小・中学校対象）	1	1	1	A	a
	特別支援教育研修会（特別支援教育支援員対象）	2	2	2	A	a

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。
方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	生涯スポーツの推進による市民の健康づくり
事業名	総合型地域スポーツクラブ「チェスト伊集院」の育成

1 事業の目的、概要等	<b>【事業の目的】</b> 地域住民の誰もが気軽にスポーツ活動を楽しみ、各自の健康・体力を維持増進するとともに、スポーツ愛好者の増加を目指し、継続的なスポーツ活動を通して、地域のコミュニティづくりを図ることを目的とします。
	<b>【事業の概要】</b> 多世代、多種目、多志向という特色をもった教室を開催・運営し、地域住民が自主的・主体的に生涯を通してスポーツを楽しみ、健康の保持増進を図る総合的な地域コミュニティの場としての取組みを実施できるよう支援します。

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	開催教室数（年間教室、短期教室）		14	14
会員数		220	220	192
教室開催数		412	412	409

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性 ○	スポーツに親しむ場として、気軽に参加できる。
必要性 ◎	スポーツ教室等とおした、地域コミュニティの場として必要である。	
効率性 △	昼間の教室開催が主となり、働く人たちの参加が難しい。	
公平性 ○	年齢、性別を問わず参加できる。	

※優◎良○可△不可×

4 予算等	800 千円	平成27年の取組み	事業の目的による自主的なスポーツ活動の推進及び健康・体力の維持増進に取組めるよう、総合型スポーツクラブの運営に対する支援及び広報活動等を行っていきます。
-------	--------	-----------	--

5 評価	評価理由	
	達成度	B
方向性	b	登録会員の増加のために新たに指導者の育成を行い、新規事業の取組みも行う必要がある。

## 【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 社会教育課

点検評価項目	生涯スポーツの推進による市民の健康づくり
事業名	学校体育施設開放事業

1 事業の目的、概要等	<b>【事業の目的】</b> 日置市内の26小中学校を社会教育団体活動の推進及び社会体育の普及・推進を図るため学校教育に支障の無い範囲で施設開放を行い、住民の使用に供することを目的とします。
	<b>【事業の概要】</b> 各小・中学校において、運営協議会を設置し開放学校毎に管理指導員を置き、市内に住所を有する（在勤又は在学する場合を含む。）10人以上で構成される団体に、子ども遊び場、少年団活動、団体で行うスポーツ及びレクリエーション活動の使用目的に対し教育に支障の無い範囲内において施設の開放を行います。

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	学校体育施設開放契約学校数		26	26
年間登録団体数		108	108	104
年間利用者数		104, 114	110, 000	151, 683

3 事業の分析	分析結果		理由
	有効性	◎	レクリエーション活動及び健康維持増進等の場の提供として有効な事業である。
	必要性	◎	施設の有効活用を図る上で、必要な事業である。
	効率性	△	使用時間、曜日に重なりが生じる。
	公平性	○	継続的使用年数により既得権的な権利が生まれる傾向にある。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	1,300 千円	平成27年の取組み	市内全ての小・中学校で学校体育施設開放事業を推進し、多くの社会教育団体の活動が有効利用できるように取組んでいきます。
-------	----------	-----------	--

5 評価	評価理由		
	達成度	A	目標値の利用者数に達している。
	方向性	a	施設の有効活用による、レクリエーション活動及び健康維持増進等に寄与する事業として継続する。

## 【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価総括表

## 【担当課による評価総括表】

担当課

社会教育課

点検評価項目	生涯スポーツの推進による市民の健康づくり
1 評価項目の現状・考え方等	<p><b>【現状】</b> 生涯を通じてスポーツ活動に親しむことは、豊かな人生を送るとともに、心身両面にわたる健康の保持増進に必要です。そのため「健やかスポーツ 100日運動」から新たな施策である「マイライフ・マイスポーツ運動」を推進しています。 コミュニティスポーツクラブ「チェスト伊集院」を平成19年4月に設立し活動を行っており、「チェスト伊集院」の育成支援を行っています。</p> <p><b>【これからの施策の方向性】</b> 市民が身近にスポーツに親しみ、健康で明るい「生涯スポーツ社会」を地域に築いていけるよう、市民のスポーツ活動や健康づくりへの参加啓発を促進し、総合型地域スポーツクラブの育成支援を行います。</p>
2 評価項目を取り巻く環境	<p>市民のスポーツへの関心が競技力向上としてだけではなく、地域づくりの場、人と人が交流し仲間づくりの場として利用したり、自分自身の健康増進に対し関心をもつち自分でもできる健康づくりを実践するようになってきている。 少子化等による低年齢層のスポーツ競技人口の減少も見られ、継続的なスポーツ・レクリエーション活動や生涯スポーツの推進を図る必要があります。</p>
4 担当課による評価結果	<p>○ 評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</p> <p>○ 評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度又は方向性の見直しが必要である。</p> <p>○ 評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</p> <p>○ 評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</p> <p>※該当する項目に○を記入してください。</p>
5 担当課による総評	<p>生涯スポーツの推進による市民の健康づくりを推進するうえで指導的立場の役割を担うスポーツ推進委員の積極的な研修参加による活動も十分実施できている。また、様々な大会の実施により多くの市民の方々へ健康づくりの場の提供を行っており、健康づくりに対して積極的な参加を呼び掛けている。</p> <p>いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる活動拠点としての総合型スポーツクラブの積極的支援を行っているが、平成19年に発足以来、平成23年度までは増加しているが、それ以降会員数も徐々に減少しており、新たな取り組みによる会員減少に歯止めをかける手立てを講じる必要がある。</p>

# 教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	社会体育施設等の充実及び利用促進
事業名	施設整備及び利用促進

1 事業の目的、概要等	<b>【事業の目的】</b> 「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツに親しみ、それぞれの個人の適正に応じ生涯にわたって主体的に取り組める健康づくり、仲間づくりの場としての施設の整備・環境づくりに努め、更には、施設利用者による交流人口で地域活性化を図ることを目的とします。
	<b>【事業の概要】</b> 年次的な施設整備計画による施設の維持管理に努め、安心・安全な施設利用促進を図る。また、利用促進施策として、九州・全国大会の開催にあつては大会規模に応じ、運営費補助による大会の支援を行います。

2 成果指標	指標項目	24実績値	25目標値	25実績値
	県外合宿・キャンプ利用団体数		41	40
施設利用者数		578,376	600,000	623,202
九州・全国大会開催数		9	9	9

3 事業の分析	分析結果	理由
	有効性	◎
必要性	◎	体力づくり、健康づくりの場として必要である。
効率性	△	大会、合宿、キャンプ等開催時期、曜日が重複する。
公平性	○	施設利用時間・曜日に既得権的な権利が生まれる傾向にある。

※優◎良○可△不可×

4 予算等	30,504 千円	平成27年の取組み	市民の健康維持増進、仲間づくりの場として使用促進を図り、交流人口による地域の活性化を図っていきます。
-------	-----------	-----------	--

5 評価	評価理由	
	達成度	B
方向性	a	市民の健康増進、競技力向上等を図る施設として、事業を継続していく。

## 【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

# 教育委員会活動の点検・評価総括表

## 【担当課による評価総括表】

担当課

社会教育課

点検評価項目	社会体育施設等の充実及び利用促進
1 評価項目の現状・考え方等	<p>【現状】 教育振興基本計画策定時に市内の体育施設50を教育委員会で管理を行っていたが、スポーツ推進審議会からの答申を経て、所管替え等を含み現在45の体育施設を管理しスポーツキャンプ・合宿を宿泊施設と連携し受入れています。</p> <p>【これからの施策の方向性】 市内の体育施設については、今後もスポーツレクリエーション活動の拠点として整備・充実を図るとともに、各種大会の誘致に取組み体育施設の有効活用による交流人口増加を図り地域活性化に寄与していきます。</p>
2 評価項目を取り巻く環境	<p>施設整備については、老朽化や経年劣化により整備を必要としている施設も多く、沢山の整備費用が必要となっています。整備については、費用対効果等考慮し年次的な計画により整備を進めるとともに、宿泊施設等との連携を図ることが必要です。</p> <p>また、スポーツキャンプ・合宿の実施時期は年間のうちわずかな期間となっているため、早い時期での調整を図り有効的に受入れる体制作りも必要です。</p>
4 担当課による評価結果	<p><input type="radio"/> 評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度又は方向性の見直しが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</p> <p>※該当する項目に○を記入してください。</p>
5 担当課による総評	<p>「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる施設として、各地域に充実した体育施設が整備されている現状にあります。それらの施設も多かれ少なかれ、老朽化等により整備を必要とする施設があり、今後も計画的な整備計画の基、施設の維持管理を実施していく必要があります。</p> <p>利用促進については、各種大会の実施により、市内外の参加者による地域活性化策の一つとして大きな役割を担っており、今後も新たな競技大会の誘致活動を推進していく必要があります。大会等の誘致にあっては、各地域の施設との連携は基より、宿泊所との連携も重要な要因となることから、更なる連携に尽力していく必要があります。また、宿泊が伴う施設利用については、宿泊助成金制度の設置も利用者からみた場合、魅力あふれる施策であり検討していく必要があります。</p>

# 事務事業評価一覧

事務事業名	評価の対象となる項目	24実績値	25目標値	25実績値	評価	
					達成度	方向性
地域総合型スポーツクラブの運営指導	開催教室数（年間教室、短期教室）	14	14	13	A	b
	登録者数	220	220	192	B	b
	教室実施回数	412	412	409	A	a
学校体育施設開放事業	学校体育施設開放契約学校数	26	26	26	A	a
	年間登録団体数	108	108	104	A	a
	年間利用者数	104,114	110,000	151,683	A	a
体育施設等の利用促進	県外合宿・キャンプ利用団体数	41	40	31	B	a
	施設利用者数	578,376	600,000	623,202	A	a
	九州・全国大会開催数	9	9	9	A	a

**【評価】**

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。
方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。